

令和6年度 公益財団法人印旛沼環境基金事業報告

第1 公益財団法人印旛沼環境基金の概要

1 設立趣旨

この法人は、印旛沼の水質浄化を推進し、もって印旛沼流域の環境保全に資することを目的とする。

2 沿革

昭和59年11月20日、佐倉市宮小路町12番地に財団法人印旛沼環境基金として、旧民法第34条の規定に基づいて千葉県知事の設立許可を受けて設立。その後施行された「公益社団法人および公益財団法人の認定等に関する法律(平成18年法律第49号)」の規定により、公益財団法人への移行を申請、千葉県知事の認定を受け、平成26年4月1日に公益財団法人印旛沼環境基金に移行した。

第2 事業の実施状況

1 事業の概要

令和6年度の事業は、令和6年2月7日開催の第2回通常理事会で決定した事業計画に基づき実施した。

2 事業の内容

(1) 印旛沼および流域における調査研究（定款第4条第1項第1号関係）

① 水質調査結果および各種環境情報等の収集と取りまとめ

印旛沼および流域の河川・排水路等で千葉県および流域市町が前年度に実施した水質等に関する調査や印旛沼等の環境保全に関わる各種情報（流域市町が対処した環境に関する問題や苦情、助成した事業、環境関連行事、啓発活動など）について取りまとめた。

これらの結果については、令和5年度に取りまとめた令和4年度の結果とともに「令和5・6年版印旛沼白書」に掲載し、流域内外の関係者や流域住民に周知した。

② 印旛沼の植生等に関する調査

繁茂面積の拡大が懸念される特定外来生物のナガエツルノゲイトウおよび在来種のオニビシについて、効果的な除去対策の検討等に資するため、継

継続的に監視が必要と思われる地点を中心に、ドローンを活用し年間を通した繁茂状況の監視・調査を行った。

(2) 講習・学習会および観察会（定款第4条第1項第2号関係）

① 講習・学習会等への講師派遣

関係機関からの要請を受け、下表に示す学習会等に講師を派遣した。

開催日	場所	テーマ	主催（対象）
R 6. 7.28(日)	印西市立印旛 歴史民俗資料館	印旛沼の成り立ち	印西市教育委員会(歴史民俗資料館講座・参加者10名)
R 6. 8.29(木)	成田市生涯 大学校	私たちと印旛沼	成田市教育委員会（成田市生涯大学院3年2組・参加者25名）
R 6. 8.30(金)	成田市生涯 大学校	私たちと印旛沼	成田市教育委員会（成田市生涯大学院3年1組・参加者22名）
R 6. 10.15(火)	佐倉市立臼井 中学校	印旛沼と生態系	佐倉市立臼井中学校（3年1～4組・参加者128名）

② 観光船による印旛沼観察会（共催：印旛沼水質保全協議会）

印旛沼流域内の住民を対象に、印旛沼に関する理解や知識を深めるため、観光船による沼や周辺の観察と学習会を行った。

令和6年6月25日（火）：参加者100名（関係者除く）

③ 親子で学ぼう印旛沼（共催：各市）

令和6年5月および8月に共催各市在住の親子を対象として、印旛沼や水に関する理解や関心を深めるため、以下のとおり観光船による沼や周辺の観察と簡易な水質検査の体験学習等を行った。3市から延べ28家族66名の参加があった。

令和6年5月25日(土)佐倉市：参加者14家族36名（うち子ども16名）

令和6年8月8日(木)成田市：参加者8家族18名（うち子ども10名）

令和6年8月9日(金)印西市：参加者6家族12名（うち子ども6名）

（8月17日八千代市・同22日四街道市：観光船不具合により中止）

④ 印旛沼環境基金公開講座

ア) 施設見学会（共催：成田市・なりた環境ネットワーク）

印旛沼や関連施設から離れた地域の住民も参加しやすく、また現地視察により理解を一層促進できるよう、バスツアーによる講座を行った。

水資源機構千葉用水総合管理所大和田排水機場、印西市立印旛歴史民俗資料館、国営かんがい排水事業（印旛沼二期地区）により令和2年度に供用開始した宗吾西機場を見学し、それぞれ担当職員から説明を聴き、印旛沼の水管理等について学び印旛沼について理解を深めた。

令和6年10月8日(火)：成田市民、18名

イ) 印旛沼公開講座 (WEB)

印旛沼に関する理解や関心を高め、中学3年生の教材としても利用可能な「印旛沼と生態系」と題する解説ビデオを作成し、YouTubeで公開した。

(3) 啓発・宣伝 (定款第4条第1項第2号関係)

① ホームページの公開

一般市民や関係団体に対して、インターネットを利用し当環境基金の事業等の紹介や印旛沼および流域の環境保全等に関する情報を広く伝えるため、ホームページの内容を随時更新し公開した。

② 「水辺の風景画コンクール」(第27回)の開催

印旛沼流域内の小・中学校の児童および生徒の水環境への関心を醸成するため、印旛沼および流域の河川等や他地域で見たり触れたりした水辺を描いた「水辺の風景画」を募集し、審査・選考した作品を公津の杜コミュニティセンター(もりんぴあこうづ)で展示した。さらに最優秀賞、優秀賞、流域市町長賞の計16点の入賞作品については表彰するとともに、流域市町を巡回・展示した。

なお、もりんぴあこうづにおける展示期間中(6日間)の来館者は、延べ809名であった。

・応募学校数：125校(小学校：101校、中学校：26校)

(注：義務教育学校から小・中とも応募があり内訳と合計が一致しない)

・応募作品数：2,211点(小学校：1,909点、中学校：302点)

・展示作品数：254点(小学校：217点、中学校：37点)

・表彰：最優秀賞1点：柿澤 優月(八千代市立萱田南小学校6年)

優秀賞2点：東 綿花(印西市立木刈中学校2年)

楊枝 美和(成田市立吾妻小学校4年)

市町長賞13点

・表彰式：令和6年11月23日(土)ウィシュトンホテル・ユウカリ

・展示会場：もりんぴあこうづ・市民ギャラリー

・展示期間：令和6年10月30日(水)～11月4日(月)

・巡回展示：流域市町(展示期間：各市町5日間程度)

令和6年11月8日(金)～令和7年2月26日(水)

③ 刊行物等の編集・発行

発行日	刊行物名	形式	部数	備考
R6.8.30	雑誌「印旛沼」(第45号)	A4判8頁	4,000	委託印刷
R7.3.18	印旛沼白書 令和5・6年版	A5判175頁	250	委託印刷

R 7. 3. 18	印旛沼のはなし	A 5 判 94 頁	3, 500	委託印刷
------------	---------	------------	--------	------

④ 刊行物等の展示・配布

印旛沼流域住民に印旛沼の現状と重要性の理解を深めてもらえるよう、講習会・学習会・助成事業成果報告会・水辺の風景画コンクール等において、当基金編集・発行の各種刊行物等を配布した。

(4) 環境保全団体等への助成（定款第4条第1項第3号関係）

印旛沼および流域において自然環境や環境保全に関する調査・研究や啓発等の各種活動を行っている小学校、高等学校、大学およびNPO法人等を含む市民団体を対象に、その活動を支援するため助成金を交付するとともに、その成果についての報告会を開催した。

① 助成対象の団体

高等学校・大学各1団体、NPO法人・一般団体等8団体の計10団体

② 助成事業成果報告会の開催

上記助成に基づき行った各学校および団体の諸活動の成果を発表するとともに、各団体間の情報交換と相互の連携を図るため報告会を開催した。

- ・日時：令和7年1月30日（木）10時00分～15時10分
- ・場所：千葉県印旛合同庁舎 2階大会議室
- ・講師：鳥海 雅弘（千葉県教育庁北総教育事務所指導室 主席指導主事）
古嶋 美文（印旛沼流域水循環健全化会議 委員）
瀧 和夫（千葉工業大学名誉教授）

但し、所属および職名は令和7年1月30日現在

- ・参加者数：38名（講師を除く）
- ・報告の課題名と団体

	題 名	団 体
1	印旛沼水系新川及び桑納川周辺の水質汚濁調査	千葉英和高等学校 生物研究部
2	印旛沼マイクロプラスチック調査	日本大学生産工学部 木村研究室
3	印旛沼流域の湧水調査と湧水マップを活用した水環境の啓発活動	NPO法人 水環境研究所
4	印旛沼流域鹿島川における計測と感性評価を総合した環境調査の試み(2)	NPO法人 環境・地理 探訪クラブ
5	印旛沼流域における里山・水環境の調査・保全と市民啓発活動	NPO法人 四街道メダカ の会
6	里山整備や自然観察会等を通じた里山保全・保護活動	里山の会 ECOMO
7	鯉のぼりと散策路保全事業	二重川に親しむ会

8 神崎川を楽しむ：2024	白井社会ボランティアの会：SSVA
9 夏休み印旛沼親子環境教室 2024	NPO 法人 環境パートナーシップちば
10 沼で遊んで考えるインパクト	印旛沼ダンボールイカダ CUP 実行委員会

(5) 印旛沼環境基金設立40周年記念事業

昭和59年の財団設立から40周年となることから、以下のとおり記念式典を開催した。

- ・日時：令和6年11月23日（土）13：30～16：15
- ・場所：ウィシュトンホテル・ユーカーリ 5階ロイヤルウィシュトン
- ・出席者数：182名
- ・内容：

第1部 記念式典

理事長挨拶、来賓祝辞の後、以下のとおり実施した。

ア) 設立40周年記念式典表彰

多年にわたり「水辺の風景画コンクール」の選者としてご尽力いただいた倉次和也氏、鳥類の生息調査等にご尽力いただいた浅野俊雄氏の2名を表彰した。

イ) 第27回水辺の風景画コンクール入賞者表彰式

最優秀賞1点、優秀賞2点、市町長賞13点

ウ) 水辺の風景画コンクール選者講評

選者 三浦 亮子 氏

第2部 記念講演

講師 国立環境研究所 気候変動適応センター

副センター長 西廣 淳 氏

演題 自然環境の保護から持続的活用へ～印旛沼流域での挑戦～